

# News Letter

## 緩和ケア支援室を 開室しました

緩和ケア支援室 大家千晶

(緩和ケア認定看護師)

みなさんは、緩和ケアについてどのような印象をお持ちでしょうか。

緩和ケアとは、次にお伝えすることを大切にされたケアです。

病気になると、環境、生活、からだや心などは健康な時とは状況は異なります。また、治療や入院に際する経済面や家庭内の心配事も考えられます。なかには、からだの痛みのため自分のしたいことができないう方がおられます。

痛みで眠れない場合には、眠れるための痛みを取り除く方法を話し合います。また、室温や寝具など環境の調整や心地よいと感じられるケアを工夫します。動き出すと痛みが出る場合には、動く前に痛み止めを飲むことで、その方の動きたいという希望を叶えます。

足がむくんでいる方は、足のだるさや痛みのほか、靴がきつい、足を出したくないなどのつらさを抱えています。症状においては、さまざまな苦痛があることを理解した上で、むくみが減り苦痛が和らぐための治療や看護、ケアを行なっていきます。



緩和ケアチーム 病棟ラウンドの様子  
(左から2人目が大家さんです)

このように緩和ケアでは、その方に合った方法をみつけながら、できるだけこれまでの生活が維持できるように支援します。心の痛みを抱える方に対しては、その方の思いや話しを聴きます。大切とすることや価値をおくものは、みんなそれぞれです。その人らしさを尊重し、必要とすることへの支援を大切に考えて

います。

当院においても、前述のような関わりが充実されるように、六月より緩和ケア支援室が開室されました。

その方の病気にのみ視点を合わせるのではなく、病気をもち苦痛を抱えた人としてとらえ、すべてのつらさに私たちは向き合います。また、患者さんをそばで支えるご家族へのケアも行なっています。患者さんやご家族の目標が達成されるために、各専門の職種が協力しあい、チームで支えることを目指しています。

私は、緩和ケアに関してより専門的な知識や技術を学ぶため、六ヶ月間の研修終了後、昨年七月、緩和ケア認定看護師の資格を取得しました。現在は、入院・通院されている患者さんやご家族の話の聴いたり、主治医の先生や看護師、薬剤師などと症状緩和について話し合ったりしています。

緩和ケア支援室は、東七階病棟にありますので、いつでも声をかけてください。どうぞよろしく願います。

CC委員会

今月の『専門職』は、『薬剤師』です。当院薬剤科の、間俊男さんを紹介します。

Q1. あなたの担当業務を教えてください

A1. 私が担当している業務はおもに、調剤・薬剤管理指導・化学療法に関する業務の三点です。

調剤業務では、外来患者さんのお薬の他にも、入院患者さんのお薬や注射薬などの調剤にも携わっています。患者さんが安心してお薬を服用できるように、細心の注意をはらい用法・用量や飲み合わせなどのチェックを行っています。

薬剤管理指導業務では、病棟において、お薬を重複して服用しないように入院患者さんの持参薬のチェックや、薬を正しく安心して服用していただけるように薬の説明、副作用のチェックを行っています。病棟で患者さんと接することは、外来窓口での対応よりもじっくり会話で

きることも多く日々勉強させてもらっています。

化学療法に関する業務では、当院におけるがん化学療法の投与量・投与間隔のチェックや抗がん剤の混合、副作用の確認などを行っています。最近の化学療法の進歩は目覚ましく、当院でも患者さんの満足のいく治療ができるように他のスタッフと協力して頑張らねばと思っています。

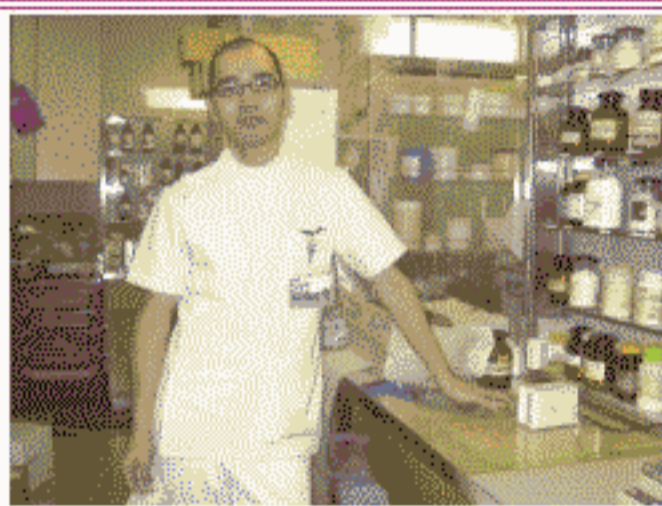
Q2. 現在の職業を選択した理由を教えてください

A2. 高校時代にスポーツ以外に、これといったものなかった私ですが、唯一化学の授業だけは好きで、何か関係がある職種につきたいと思ったのがきっかけです。

Q3. 業務を通じて、今までで最も心に残っている出来事を教えてください

A3. 日々多くの患者さんと接していますが、外来では接する時間も少なく、私自身の記憶力も悪く、名前と顔が一致しないことが多いです。しかし、不思議なことに、処方箋で名前と薬剤名をみればハッと鮮明に記憶

がよみがえり、窓口で適切な対応ができる時があります。その瞬間が一日のなかで一番スッキリして心に残る場面です。



調剤業務中の間さんです

Q4. あなたの好きな言葉、指標としていう言葉を教えてください

A4. 特にはないですが、しいてあげるならば『なせばなる』という言葉でしょうか。

判断がつかなくて迷った時は、とりあえず行動して一歩前進することになっています。

Q5. 読者の方(患者さん、一般の方、院内スタッフなど)へのメッセージをお願いします

薬剤科には、私を含め十五名

の薬剤師が勤務しており、他の仲間たちと時にはぶつかり合いながら、患者さんにより良い医療を提供できるよう頑張っています。

また、薬剤科には若いスタッフも多く、薬剤師としては調剤室の中にこもるのではなく、患者さんと会話をすることが何よりも勉強になりますので、気軽に話しかけて下さい。

薬剤師さんの業務内容を知って、まず私の頭に浮かんだのが、当院が目指す医療として掲げる四つの基本方針でした。

「正確で間違いのない医療」「十分に説明をする医療」「透明性を大切にす医療」「患者さんの希望を大切にす医療」

薬剤科のスタッフの方も、日々の業務の中でこの基本方針を当り前に実践しているのだと思います。

病院の廊下でお会いするたび、カラッと明るい声で挨拶してくれる間さん。薬剤管理指導などでお話をした患者さんも、間さんから元気をもらっているのではないのでしょうか。

## からだにやさしい食生活

栄養科

豆類は良質のたんぱく質、カルシウム、ビタミンEなどを含み栄養価の高い食品です。

加工食品も豊富で、厚揚げ、がんもどき、高野豆腐、豆乳、おからなど用途によって使い分けができます。

50gの茹で大豆に相当する量は、豆腐なら1/3丁、納豆なら約1パックに相当します。

大豆に足りない栄養素はビタミンAとC。野菜や肉・魚と組み合わせたり、ヨーグルトや香辛料などもうまく使いながら味に変化をつけ、日常的に摂取していくことをお勧めします。

今回は大豆とひよこ豆を使い、食物繊維が豊富なれんこんやにんじんを組み合わせた一品を紹介いたします。

### 【大豆とひよこ豆の

生姜風味煮】

☆材料☆(2人分)

・大豆(水煮) ……100g

・ひよこ豆(水煮) ……100g

・豚もも肉(薄切り) ……100g

・葱 ……1/2本

・生姜 ……1かけ

・れんこん ……1/4節

・にんじん ……80g

《調味A》

水 ……カップ1

醤油 ……大さじ2

砂糖 ……小さじ2

酒 ……大さじ2

片栗粉 ……大さじ1/2

・サラダ油 ……大さじ1/2

### ☆つくり方☆

①豚肉は半分の長さに切る。葱は斜め薄切りにする。生姜は皮のまま薄切りにする。

②れんこんは半月形に切る。にんじんは半分に切って斜め5ミリ厚さに切る。大豆とひよこ豆は洗って水気を切る。

③鍋にサラダ油小さじ2と生姜を入れて熱し、香りが出たら豚肉を加えて炒める。全体に焼き色がついたら豆と野菜類を加えて炒める。

④全体に油が回ったら、Aの材料を加える。沸騰したら火を

弱め、アクを取って15分〜20分間煮る。

⑤仕上げに倍量の水で溶いた片栗粉を加えてとろみをつける。

## LUNCH★BOX

今月は、放射線技師さんの「愛妻弁当」を紹介します。このお弁当を作った愛妻は、当院の看護師さんです。三交替制勤務で夜勤もしている奥さんが、ご主人のためにお弁当を作っていると聞いて、ぜひ、取材をさせて欲しいとお願いして今回ご協力いただきました。

撮影に伺ったとき「実はまだ僕も中身をみていないんですよ!」といったご主人の笑顔がとてもうれしそうでした。メニューはかきフライ、卵焼き、キュウリ、ほうれん草のバター炒め、きんぴらごぼう、かぼちゃとベーコンの炒めもの、真っ白なご飯のうえにふりかけというなんとも美味しそうなお弁当です。彩りだけでなくご主人の健康のことも考えて、野菜もしっかり入ったお弁当だと感心しました。

ちなみにご主人に「どれが一番美味しかったですか?」と質問したところ「かぼちゃとベーコンの炒め物」でした。奥さんの自信の一品はどれだったのかな?

奥さんが忙しい仕事の合間に愛情のいっぱい詰まったお弁当と一緒に愛情もしっかり食べる。作る方も食べる方も相手のことを思いながら幸せな気持ちになれるのではないのでしょうか。

以前、奥さんに「不規則な勤務なのにお弁当を作るのは大変でしょう?」と尋ねた時、「大変だけど…」とはにかんだ笑顔と撮影時のご主人の笑顔、二つの笑顔がとても素敵でした。どうぞ、末永くお幸せに…。



## 病院の理念

1. 幡多けんみん病院は幡多地域における医療の中核となる病院として、地域の他の医療機関や保健・福祉・介護施設などとの連携のもとに、地域で完結できる、良質な医療の提供を目指します。
2. 地方公営企業として、地域医療をとおりして地域の福祉の増進を目指しながら、企業としての経済性を発揮する運営をおこないます。

医療機関を受診される際は、**お薬の内容が分かるもの(薬剤情報提供書・お薬手帳など)**を持って行くようにしましょう！

## 私たちの目指す医療(基本方針)

1. 正確で間違いのない医療
2. 十分に説明をする医療
3. 透明性を大切にする医療
4. 患者さんの希望を大切にする医療

## 花火

編集スタッフ

日本で夏の夜の風物詩といえ「花火」。夏の夜を鮮やかに彩ります。

花火は、もともと中国で戦争の「のろし」として発明されたものが原型だといわれています。日本では、種子島に鉄砲と火薬が伝来したことに始まり、花火第一号は、イギリスの花火名人が徳川家康の為に披露したものだといわれています。この頃から花火が将軍家や大名などの身分の高い人の中で広まりました。現在、各地で行われている花火大会の原型は、「隅田川花火大会(領国川開き)」だと言われている。当初、納涼花火は川に屋形船を浮かべて花火を鑑賞するといふものでした。花火の掛け声で「たまや、かぎや」といふのがありますが、これは、隅田川花火大会で花火師を務めた「鍵屋兵衛」と鍵屋の七代目清七が分家して始めた「玉屋」からきています。両者が技を競いあい、民衆が掛け声をかけな

がら鑑賞していた名残が今に受け継がれています。

夏の夜空を見事に彩る打ち上げ花火は、美しく、大きく見事な花を咲かせますが、その一方、一瞬で消えていく儚さもあります。あの一瞬の美しさの為に長い時間と労力を費やす人たちがいます。でも、その人たちは決してそれを虚しく感じることはありません。それどころか、その一瞬のために力を注ぎ、その一瞬でそれまでの労を忘れるほどの達成感、充実感と感動があると云います。それがまた見る人の心を動かすのではないのでしょうか。物事を考える時、ついっいそれに要する労力やあとに残る結果ばかりを考えて二の足を踏んでしまいがちです。でも時には、一瞬にかけて、一生懸命になることがあって、いいのではないのでしょうか。「夏の夜空を彩る打ち上げ花火のように……」



## 5月の統計

外来患者数	14,605人
新外来患者数	2,307人
紹介患者数	383人
新入院患者数	495人
退院患者数	517人
平均在院日数	15日
救急車・時間外患者数	1,483人
手術件数	215件

## 幡多けんみん病院における患者さんの権利

1. 患者さんは、良質な医療を平等に受ける権利をもっている。
2. 患者さんは、医療を受けるにあたり、十分な説明を受ける権利をもっている。
3. 患者さんは、プライバシーが守られることを期待する権利をもっている。
4. 患者さんは、自分の希望を伝え、医療に参加する権利をもっている。
5. 患者さんは、人間としての尊厳が守られることを期待する権利をもっている。